



進路だより

静岡県立袋井特別支援学校

No.4 R6. 11. 20

○高等部2年生産業現場等における実習

高等部2年生が10月から11月にかけて3回目の産業現場等における実習を行いました。今回も多くの企業・福祉事業所に御協力をいただき、これまでとは異なる実習先にチャレンジしました。それぞれの実習先で様々な経験をし、学び、仕事内容や職種への適性を考えることができました。今回の実習で得た成果や課題を、進路に生かすことができるように目標をもって生活をしていきたいです。



☆実習をとおして教師が感じたこと

『児童生徒に身に付けて欲しい力』

実習では、作業能力に注目しがちですが、多くの進路先で求められることは、働くための土台となる、睡眠、食事などの体調管理や日常生活能力、相手に伝わるように挨拶や返事をすることや「報告・連絡・相談」などのコミュニケーションの力です。

日常生活能力については、例えば、起床・洗顔・歯磨き・整髪・入浴・トイレ・衣服の着脱・アラームの設定・洗濯など、児童生徒の年齢やできることに応じて、ひとつずつ身辺自立を図っていくことが大切です。在学期間に学校と協力しながら、自分でできることを増やしていけると、実習先の評価や卒業後の生活にも繋がると思います。

また、「分からないことは質問する」、「作業が終了した際は必ず報告する」、「自分なりの表現で伝える」など、実習先の方々とのコミュニケーションはとても大切です。学校や家庭の中で、まず大人が率先して挨拶や返事などの手本を示していきたいです。そして、子どもたちが、相手に聞こえる声で伝えたり、相手に分かるようにうなずいたりするなど、自分なりの方法を身に付けることができるよう、毎日の挨拶や会話を積み重ねていただきたいと思います。

『家庭で意識してほしいこと』

卒業後、どのような暮らしをしたいのか、どのような働き方をしたいのかなど、本人の意思ややる気が福祉事業所や企業での進路決定に繋がっていきます。実習先の方にも、本当に働く気持ちがあるのかということは、実習中の態度や姿勢で伝わります。高等部段階に限らず、家庭で、将来について本人を交えて話をたくさんしておくこと、卒業後はどのような生活をするのか、またしたいのか、児童生徒や保護者が将来を見据えて生活をするのが大切です。